

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒 248 - 0005
鎌倉市雪ノ下 3 - 5 - 1 0

E-mail _____

Website http://www.kamakurasho.ynu.ac.jp/

児童生徒数 男子 313 名 女子 318 名 合計 631 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校の学校教育目標は「自立に向かう子」である。自立に向かう子のことを、「なりたい自分を思い描き、歩いていく子」として捉えている。ユネスコスクールとしての活動を、子どもたちが思い描き、子どもたちが中心となって学校全体に広めていくという理念のもと、本校では昨年度にユネスコ委員会を立ち上げた。昨年度は、「そもそもユネスコスクール、いやユネスコって何だろう?」「持続可能な活動って何だろう」と調べたり話し合ったりすることに重点を置いた。話し合いの結果、ベルマークの収集とペットボトルキャップの回収を活動の柱にした。

今年度は、昨年度の委員からの引継ぎを踏まえ、常置活動としてペットボトル本体及びキャップの回収を設定した。キャップだけでなくペットボトル本体を回収することにしたのは、「回収することで、身の回りの道具を自分たちでリサイクルできることに気付いてほしい」という子どもの発言から実現した。(この活動は一定の成果があると考え、一学期間で終了した。)子どもたちが回収活動をする理由や思いを伝えるために、



今 ワクチンさえあれば
助かる子どもの命が
1日約4000人
失われている

朝会での全校児童への発表、校内ビデオ放送、ポスターの掲示など、他の児童が目と耳でユネスコ委員会の活動を感じられる機会を自分たちで作っていた。回収業者によると段ボール5箱単位で回収するところ、今年度は4箱と少しということで、発送できる量には至らなかった。しかし、昨年と比べると増えており、学校全体に活動が少しずつ浸透していることがうかがえた。

昨年から受け継いだペットボトルキャップ回収の常置活動以外に子どもたちから出てきた意見がある。それは、中庭のひょうたん池を何とかしたいということだった。中庭のひょうたん池は、人工的に作られたひょうたん型の浅い池で、かつてポンプを使って水を循環させていた。ポンプが壊れて数年がたち、水は濁り、また児童が投げ込んだ石なども数多く堆積していた。子どもたちは早速ポンプを直す方法や、買い替える場合の価格を調べてきた。調べた結果、ポンプは直せる状況でなく、買い替えようにも元の水道管等が地面に埋まっていて簡単には替えられないことなどがわかった。そこで、専門の方に話を聞いてみようということで1学期の活動が終了した。

鎌倉市の緑化推進委員であり環境教育アドバイザーの岩田晴夫さんをお願いして、8月の午後にひょうたん池を一度見ていただいた。そこで水質や水温検査、周囲の生物調査をしていただき、現状の問題点や今後の活動計画を相談させていただくことができた。



2学期が始まり、岩田さんのアドバイスから、電動のポンプを使わないひょうたん池のビオトープづくりが始まった。岩田さんに来ていただく10月と11月に備え、まずは池のヘドロをすべて出すことから始めた。ヘドロを取り出す作業を続けながら、「すごく臭い」「こんなに物が投げ込まれていたんだ」という驚きがあった。なかなか減らないヘドロとごみの前に、子どもたちは苦勞していた。その一方で、生き物が住みやすい環境をつくろうという思いが子どもたちの中で強くなっていったことが活動の様子を通して感じられた。

10月24日、岩田さんに来て校していただき、ビオトープ化への活動の進め方をアドバイスしていただいた。ポンプがなくても環境をつくっていくことの方が持続的であること、思ったよりも外来の生物が池の中にたくさ



んいること、今の生き物が少ない理由などについて教えていただいた。ヘドロを出す作業と並行して、池の内側にブロックを敷き詰めるための計算をした。カエルなどの生き物にとって水面と外への行き来がしにくい高さであったほか、メダカなどが安心して暮らせる空間をつくるためにブロックを敷いた。子どもたちはブロックのサイズに画用紙を切り分け、いくつかのブロックを注文したらよいか計測し、計算した。さらに、池の中の水質を保つために有効な赤玉土がどれくらいの量必要になるのか、池の面積

から概算した。これも子どもたちがこれまでの学習を生かして行った。池の中のメダカを一時的に退避させるという目的で、かつてポンプを使った循環装置に使われていたバスタブの掃除も行った。また、日当たりが良すぎる中庭に日陰をつくるため、そして新しいひょうたん池のシンボルとして鎌倉の貴重な木であるジャヤナギを池の南側に埋めた。

ヘドロの量が思ったより多く、11月21日に岩田さんに来ていただいた際にちょうど池の中の清掃が終わった。池の水を抜き、メダカを退避させた。それ以外の外来種を駆除し、湿性植物の移植と種蒔きを行った。ヘドロがなくなり底面が見えるようになった池と、セリなどの湿生植物の移植から、目に見えてひょうたん池が変わってきたことに、子どもたちは達成感を感じているようだった。また、池周辺の草刈りも行った。



この後、子どもたちが計算した量の赤玉土が届いた。そのまま入れると細かい粉で池が濁り、メダカの生育にも影響が出るというところから、ふるいで篩った赤玉土を池の中に少しずつ入れていった。11～12月の寒い中、休み時間に分担して活動している姿が見られた。自分たちが関わったビオトープが完成に近づいたという強い思いがあったのだと感じられた。

12月5日、年内最後の委員会活動の日となった。岩田さんをお願いして、予

定よりも回数を増やして今回も学校に足を運んでいただいた。池の周囲の溝に入れた赤玉土や池の中央にミゾソバ・ウキヤガラ・ハンゲショウ等を移植したりツリフネソウ・イの種を撒いたりした。その際、子どもたちが自分でどこに何が植えられているのか記入したカードを植えた。この辺りも、子どもが自身から関わる活動になっていた。その後、池の環境が安定したところでメダカを池の中に戻した。暖かい春が来るまで大きな変化はないため、しばらくは見守る期間となっている。

2月28日は鎌倉ユネスコ協会主催のESDパスポート活動2016年度報告会にお招きいただき、一年間の活動を学校の外に向かって報告することもできた。

子どもたちが声を上げたことから活動が始まり、持続可能な形のビオトープづくりに向かったことは大きな意義があると考えている。今年度のユネスコ委員会の子どもたちから来年度への願いは、今はまだ芽がほとんど出ていないひょうたん池を今後も見守ってほしいということだった。そこには、一緒に池の環境を守っていきこう、池の環境ことをよく知ろうという全校児童への呼びかけも含まれている。来年度も、これを引き継いだ児童と活動をつくり上げていきたい。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 委員会活動の時間 ユネスコ委員会 ）